

高等学校・公民「現代社会」の金融教育

— 経済ニュースからアプローチする「金融経済学習」 —

金融教育の現場レポート

「金融教育」は、社会の中で生きる力を育むことを目的として行われる教育です。このコーナーでは、金融教育の授業がどのように進められているか、教育現場に立つ先生や、授業を受ける生徒の姿をレポートします。今回は、神奈川県立海老名高等学校の梶ヶ谷穰教諭が実践する、公民「現代社会」における先進的な金融教育の取り組みについてご紹介します。

新聞記事から フェアな社会経済行為を 考える学習

「経済はむずかしくて、つまらない」「金融は専門用語が多く、基礎的な理論もよくわからない」

そんな高校生の声を聴きながら、「楽しく、わかりやすい金融・経済の学習ができないだろうか」と模索していた梶ヶ谷教諭は、平成18年当時、世間を賑わせていた大手企業の「粉飾決算」や投資家の「インサイダー取引」に関する経済ニュースを素材として活用する方法を思いつきました。

「高校生でも、日常のニュースの内容をよく理解できていない子が多いのです。海老名高校のような進



学を目指す生徒が多い学校であつても、税金のことや円高・円安の仕組みなどさえ、なかなか上手くは説明できませんし、現実の経済社会を教科書で学ぶのは、やはり難しいことなのかもしれない。ですから私は、高校生が興味や関心を持てるよう、話題性のある経済ニュースを授業に導入することを試みました。そこから、関連する経済事項や学習内容を解釈させ、説明や論述をさせてみる。従来『知識注入型』ではなく『考察させる学習』の実践により、知識の定着も

一層期待できると考えました」。

そして、梶ヶ谷先生はそれを「平成18年度 金融教育公開授業 in 神奈川県」として、海老名高校の1年生に実践。まず、授業の冒頭で生徒たちに向かつて、

「みなさんは、お金をたくさん儲けたいですか？ あなたのお金についてのスタンスや目標は？」と次のような選択肢を示して、「お金」をテーマに大胆な問いかけをしました。

1. 一攫千金を目指す！
2. ある程度たくさんのお金」が欲しい！
3. 生活できるだけの「お金」があればいい！
4. 「お金」なんていらない！

そして、この4つの項目から、生徒たちは自分の価値観に近い答えを選びました。こうして、授業の初期導入

神奈川県
神奈川県立海老名高等学校
梶ヶ谷 穰教諭

時から上々の“つかみ”を得て、生徒たちのモチベーションも一気に高まります。

次に、当時大きなニュースとなっていた

「粉飾決算」の報道

事例を読みながら、

「企業統治(コーポレートガバナンス)とは何か」、「情報開示(ディスクロージャー)とは何か」、そして「インサイダー取引」の報道事例へと、NIE(教育に新聞を^{※1})のスタイルを効果的に活用しながら展開。生徒たちも、当時世間が騒いでいた耳新しいニュースの詳しい内容を把握しながら、的確に理解を深めていくことができたのです。

「お金より大切なもの」はあるか? を考える

さらに授業は、「インサイダー取引」に関連するマーケットの公正・公平について、今度は個々に考察をしていきます。

「マネーゲームとは?」

「合法でルールの範囲内なら、どのように儲けてもいいのか?」

あるいは、株や商品の誤発注を出した企業の新聞報道から、「他人の



過失(不注意)に乗じて儲けていいのか?」などと、生徒たちに投げ掛けました。

「社会経済を通して、自分だけでなく他人のことも目を向けてほしいと思っていました。違法でなければ何をやってもいいのか、そのために惹き起こされる影響はどうなのか。大切なことだからこそ、一度立ち止まって生徒たちには考えてもらいたかったのです」と梶ヶ谷先生は説明します。

さらにそうしたなかで、「企業の社会的責任(CSR^{※2})」や「フェアな経済行為とは何か」へと理解を深めていきます。同時に、例えば、立派にCSRを果たしている企業へ「社会的責任投資(SRI^{※3})」を行うことは、たとえ買った株で儲けられなくても、健全な企業に一票を投じることも同義だとして、この1時間授業は修了しました。

実は梶ヶ谷先生は、授業の冒頭で



投げ掛けた「お金」に対する価値観をベースに、「お金」と「幸福」の関係について考えてもらうことをメインテーマと捉えていました。

「お金をたくさん儲けたいのは本音だけど、そのために法律違反をするのはよくない」

「法律違反ではなくても、マーケットの健全性が維持できなくなるような場合、公正・公平の観点から見たらどうだろうか」。

いささか倫理的な思考も加えながら、生徒たちはそれぞれ自分なりの答えを見つけていったようでした。

「生徒に問いかけたお金に関する4つの価値観については、授業の導入



時とまとめ時の2回、生徒39人からアンケートをとりました。結果は、「攫千金を目指す」は8人から3人に減り、「生活で

きるだけのお金があればいい」は2人から11人に増え、全体的に健全な金銭感覚が身に付いたという手ごたえを感じました。さらに数カ月後の追加調査では、「お金より大切なもの」『命・家族・幸福・健康・人間関係』などという言葉が生徒たちから挙がりました。

そもそも、「フェアな経済行為とは何か」の問いに対する正解は一つではありません。また、抽象的に知識として教えるには困難な内容でもあります。それを、新聞報道を題材にして、生徒自身がそれぞれの価値観に照らし、考えながら答えを見つけていく形で理解させることに成功した梶ヶ谷先生の取り組みは、理想的な実践授業だったといえそうです。

新しい学習指導要領への取り組み

18年度に行われたこの公開授業を機に、梶ヶ谷先生は消費者問題、多重債務問題等も、次々に授業で取り

上げています。

公民「現代社会」では消費者に關する問題が扱われるとともに、家庭総合では「消費者の権利と責任」を扱う際は、「契約、消費者信用及びそれらをめぐる問題などを取り上げること」とあり、多重債務の問題は今後、積極的に授業で取り上げられることになるだろうといわれています。

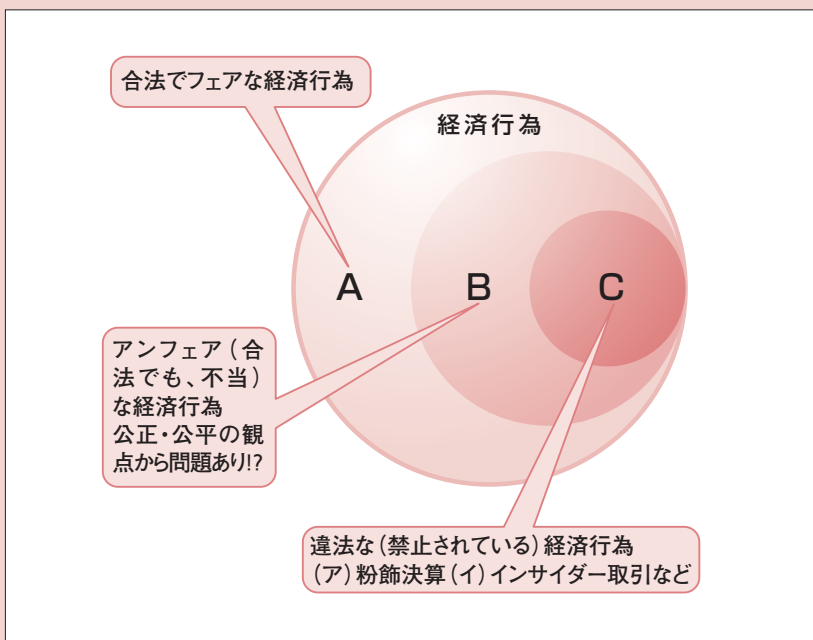
梶ヶ谷先生は、金融経済における多重債務問題の現状や背景・要因、金利やヤミ金融について、多重債務に陥らないため、あるいは陥った場合の対処法などについて、2時間をかけて指導します。

また、この授業では、導入時にヤミ金融業者の被害者に対する脅迫電話のテープを聞かせて、問題意識や興味・関心を喚起していますが、その強烈な印象が、生徒たちを授業に惹きつけることは言うまでもありません。

「知識がないことよって人生を台無しにしないための、生きる力」を付けるのが教育です。公民「現代社会」の分野では、会社の仕組みや機能、株式市場、間接金融と直接金融の違いなど、生徒たちが将来直面するであろう経済社会について理解し把握させることで、少なくとも『お金』で大切な人生を失敗しない教育をしたいと考えています」

金融経済の入口を学校教育の場で学んでほしい

金融や経済に関する情報は常にあふれているけれども、どうも詳しくはわからない。そんな高校生は実際、「知りたい欲求」でいっぱいなのだと言います。梶ヶ谷先生は話します。



〈概念図〉

「フェアな経済行為・取引」とは何か。—合法と違法の間で—



とはいえ、正規の授業では経済の理論や制度の説明で精一杯なのが現在の高校教育の現状です。しかし海老名高校では、「知りたい生徒」が自然に集まって課外活動サークル『消費・経済研究会(ファイナンスクラブ)』が立ち上がり、現在、1年生〜3年生の約65名が所属しています。

金融の仕組みや機能、金融システム、金融商品の特徴をはじめ、預貯金や証券投資、株式やファンド、リスクとリターンなどについて学んだり、将来的には、生命保険や損害保険を理解するところまで視野に入れて

いるそうです。

もともと校外の研究会活動にも熱心に取り組まれている梶ヶ谷先生は、情報のアンテナや人脈も豊富で、生徒たちのために講師を招いて講演会を開いたり、日本銀行見学ツアーなどフィールドワークも企画。非常に意識の高い生徒たち20〜30人が、常に熱心に活動を行っています。

また、海老名高校は環境教育にも力を入れており、サークルの生徒たちは、自然と環境学習にも興味を持つことが多いと言います。

「高校生の『知りたい欲求』は、広

く社会に目が向かっている証拠なのだと思います。現代社会の授業では『会社作り』をテーマにすることもありますが、環境教育と金融経済教育の効果なのか、社会的に貢献する社会起業家などにも興味を示す生徒たちが増えてきました。素晴らしいことだと思いますね」。

これからも高校生の教え子たちと社会経済の入口で架け橋となるような教育に取り組んでいきたいという梶ヶ谷先生。「私の実践が多くの先生方の参考となり、お役に立てれば」ともおっしゃっていました。

※1 N-E (Newspaper in Education) 「教育に新聞を」の意。学校など教育の場で新聞を教材として活用すること。

※2 CSR (Corporate Social Responsibility) 「企業の社会的責任」の意。企業の組織活動が社会へ与える影響にも責任を持つこと。

※3 SRI (Socially Responsible Investment) CSR (企業の社会的責任) や社会貢献を重視して行う投資の意。CSRを評価して企業に投資すること。

高等学校・公民「現代社会」の金融教育

— 経済ニュースからアプローチする「金融経済学習」 —

神奈川県

神奈川県立海老名高等学校 梶ヶ谷 穰教諭